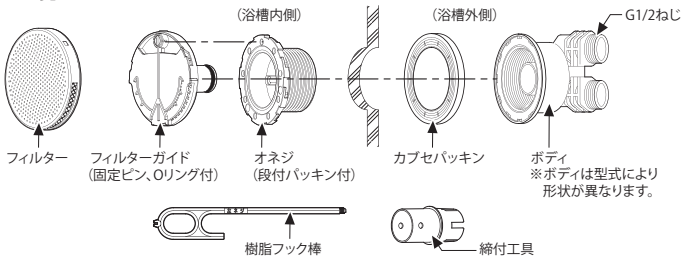


# フルオートタイプに関する工事仕様

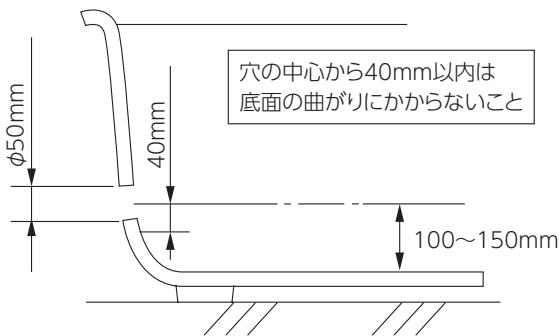
## 浴槽循環金具(別売部品:HWH-AH23シリーズ)の取り付け

- この浴槽循環金具は浴槽肉厚15mm以下用で、行き・戻りの指定はありません。(無極性)
- この部分は、組み付けられています。分解方法は、浴槽循環金具に付属の取付説明書をご覧ください。



## 浴槽の穴あけ

- 浴槽の底部から100~150mmの位置にφ50mmの穴を1カ所あけます。このとき、穴の中心から40mm以内は浴槽底面の曲がりにかからない位置にしてください。また、バリはきれいにしてください。



## 浴槽への循環配管

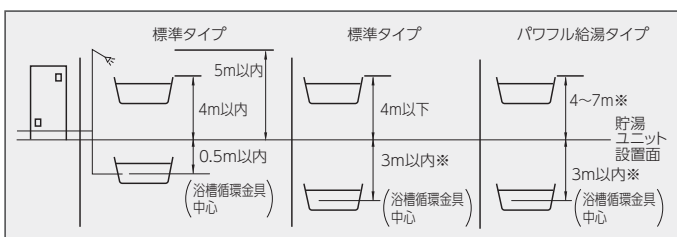
- 浴槽への循環配管は、耐熱、耐食性および絶縁性を考慮し、銅管、耐熱塩ビ管、架橋ポリエチレン管等を使用してください。
- 配管継手は必ず耐熱・耐食性の継手を使用してください。
- 配管接続部にゴムパッキンは使用しないでください。漏水の原因になります。
- 循環金具は必ず専用の別売部品を使用してください。
- 循環配管にフレキ接続管を使用するときには、貯湯ユニット側、浴槽側それぞれ500mm以内(片側)にしてください。
- 使用する浴槽の目安は120~450L位です。
- 製品1台で2つの浴槽と接続しないでください。
- 銅管にて配管を行うときは配管内に口ウ材が流れ込まないように十分注意してください。配管が狭くなり、正常に運転しないことがあります。
- 浴槽の種類によっては湯はり中やポンプ循環中に浴槽がびびり、音が発生することがあります。発生時には、流量調節弁等を入れて流量を調節してください。
- 循環配管の管径、配管延長および使用高さ範囲は、次の表および図により行ってください。

浴槽の設置場所	耐熱塩ビ管・架橋ポリエチレン管・銅管	
	管径	配管延長
1階	13A~16A	25m10曲り以内
2階	13A~16A	25m10曲り以内
3階	13A~16A	25m10曲り以内

※銅管10A・6m以下、5曲り以下

※エルボ継手は使用しないでください。圧力損失により循環不良の原因となります。

## 浴槽の設置高さ範囲



配管径が細いほど、また配管が長いほど、湯はり時間は長くなります。

※別売オプション HWH-UD1F 使用時、階下3mまで可能です。

※別売オプション HWH-UD1F を使用しない際は階下0.5mまでとなります。

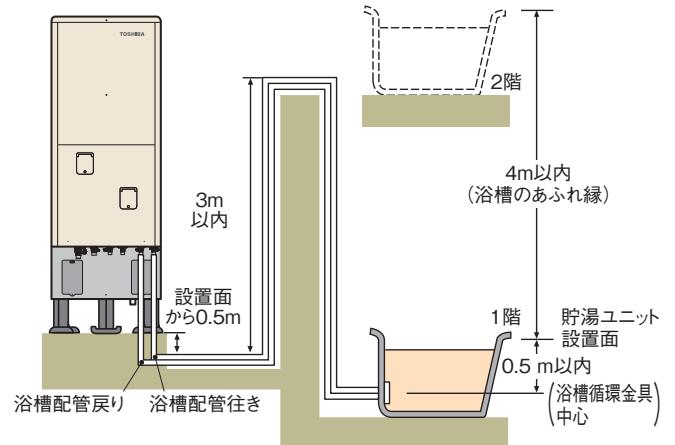
※別売オプション HWH-UP3F 使用時、高さ4~7mまで可能です。

## 浴槽追いだきについて

- 追いだきを使用すると、タンク内の湯温が下がります。また、冬期に前日の残り湯を沸き上げるとき等は、タンク内の湯温が大きく下がります。

## 貯湯ユニットと浴槽間

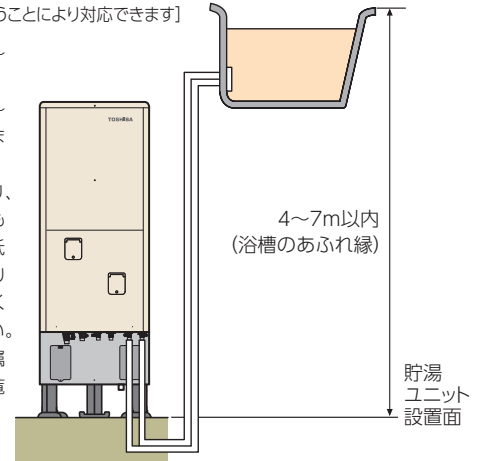
- 鳥居配管落差は3m以内です。
- 2階浴槽までの落差は4m以内です。
- ご使用になる浴槽の目安は120L~450L位です。



## 3階への湯はり(パワフル給湯タイプのみ)

[別売部品:HWH-UP3Fを使用することにより対応できます]

- 浴槽のあふれ縁高さが4~7m以内です。
  - 浴槽行き戻り配管は13A~16Aで最長25m・10曲りまで対応可能です。
  - 3階浴槽設置での湯はり、追いだきは1階、2階よりも時間がかかります。流量低下を防ぐため、できる限り配管長を短く、径を太くするように配慮ください。
- ※詳しくは別売部品に付属されている説明書をご覧ください。



## 階下への湯はり

[別売部品:階下湯はりキット(HWH-UD1F)を使用することにより対応できます]

- 階下浴槽までの落差は3m以内です。
- ※階下への湯はり、別売部品の階下湯はりキット(HWH-UD1F)を使用しないと正常な湯はりができず、エラーが発生します。
- ※詳しくは階下湯はりキットに付属の説明書をご覧ください。
- ※配管途中での継手を使用しないでください。負圧による空気の吸い込みでエア噛み循環不良の原因となります。

